

2002年度（平成14年度・第32期）事業計画書

財団法人 世界自然保護基金ジャパン

2002年度（第32期）事業計画活動方針

1. 2001年度概観

- ・2001年度はWWF本部設立40周年、また当WWFジャパンも設立30周年の節目の年であった。経済環境は大変厳しい中、当会は形式的な祝賀行事は控えて実質的な30周年重点事業活動を展開し、成果をあげることができた。
- ・内部的には7月に新事務局長、10月に新自然保護室長が着任するなど人事・組織面の体制を整えた。

2. 中長期目標（2004年度まで）

- (1) WWFの6つの重点目標および重点エコリージョンを軸に日本における主体性のある活動を展開し、着実な進展を図る。
 - (2) 必要とされる多方面との連携・協働（パートナーシップ）を積極的に推進する。
 - (3) 活動・規模の質量ともに拡大を図る。（含 会員・支援者の拡大）
 - (4) 情報システム、組織、人事制度・人材確保育成等を整備し、効率的、効果的な活動の基盤を構築する。
- （パートナーシップの強化・推進はWWF全世界共通の重点課題である）

3. 2002年度基本方針

上記中長期目標に向けて2002年度はその基盤固めの年と位置付け、以下の基本方針、重点指向でとり進める。

(1) 基本方針

- ・「新生WWFジャパン」を旗印に - 明るく、元気に、前向きに - 活動に取り組むこととし、「挑戦とトライ&チェック」を果敢に行う。
- ・原点をWWFインターナショナルの6つの重点目標（森林 淡水域 沿岸・海洋 生物種 気候変動 有害化学物質）および重点エコリージョンに置き、WWFジャパンとしての実態に即した主体性のある活動を展開する。
- ・現下の厳しい経済環境に鑑み、来期の事業活動規模は、今期水準レベルに留めて展開する。但し、活動の重点指向、取捨選択を的確に行い、決して縮小することなく新規取組、新規事業拡大には果敢に取り組むこととする。

(2) 重点指向

特に自然保護活動，サポーター拡大分野で外部の多方面との連携・協働（パートナーシップ）を強化・拡大する。2002年度は新たな対象の開拓とこれまで不十分な関係にあった相手先との連携・協働を促進する。

優先順位付による重点指向（プライオリティ）を行い，浄財のより有効な活用を図る（個別目標管理制度の試行を含む）。

WWFの活動への信頼と評価を更に拡大・定着（ブランディング）すべく情報の発信，啓蒙活動に注力する。WWFのブランド力を強化すべく「全員マーケティング」という位置付けで推進する。

ブランディング：WWFのブランド力の拡大と信頼・評価の高揚 結果として会員・サポーターの拡大につなげる。

国際化の強化，特にアジアを中心とした海外貢献活動および国際的リーダーシップ形成を積極的に展開する。

地域への展開（地域密着，住民主導・参加，地域での個人・法人会員，ボランティアの拡大，組織化等）をより推進する。

2002年度は今後のWWFジャパンの飛躍に向けての基礎固めの年と位置付け，情報管理の一元化（含 システム・設備整備），人事・組織体制整備等の強化を図る。

これ等の基本方針・重点指向を踏まえて，活動計画を以下のとおり設定・展開のこととする。

2002年度自然保護事業計画

中長期目標

WWFの6つの重点目標、およびエコリージョン・アクション・プログラムの思想に則した自然保護活動を地球規模で展開するのに適した内部組織を形成し、行政、アカデミズム、産業、NGOなど幅広いセクターとのパートナーシップを最大限に活用して自然保護活動を行い、その成果を広く効果的に公表することでWWFジャパンの思想と活動に対する人々の共感と理解を深め、広範な支持層を獲得して結果としてサポーターの拡大をはかる。

2002年度活動方針

1. WWFの6つの重点目標に適合した自然保護活動を展開する。そのために自然保護室の体制を見直し、プロジェクトの重点化を行う。
2. 国内、および東南アジアのエコリージョンにおける自然保護活動を強化する。そのために、既存の活動を見直し、新たな視点からプロジェクトを開発する。
3. 行政、アカデミズム、産業、NGOなど、幅広いセクターとのパートナーシップを強化し、協同事業を積極的に推進する。
4. 広報、教育活動を強化し、人間社会に対する深い洞察に基づいた自然保護活動を通じて、WWFに対する共感と理解を拡大し、支持層を拡大する。
5. GAA（政府系補助金）などの外部資金の獲得力を強化し、プロジェクトベースでの資金調達を拡大する。

2002年 自然保護室新グループ組織体制

グループ	プログラム
地球環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林保護(FSC) ・ 種の保存 ・ 気候変動 ・ 有害化学物質 ・ 漁業
生態系	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林 ・ 淡水 ・ 沿岸・海洋 ・ 生物多様性
エコリージョン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南西諸島, ・ 琵琶湖 ・ 黄海
トラフィック (TRAFFIC)(注1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市場調査, 普及啓発など

上記と併行して次の2つのグループを設定

ポリシーアドバイザーグループ(構成員:重点領域担当者,グループリーダー)

広報・環境教育グループ(グループ間を縦断する組織)

2002年度活動プロジェクト(1/3)

グループ	プログラム	活動プロジェクト
地球環境	森林保護	森林認証制度の普及① FSC(注2)の知名度向上・普及
		森林認証制度の普及② FTN(注3)の設立・展開
		森林認証制度の普及③ 国内認証制度の推進
		キナバタンガン保護事業(マレーシア・サハ州)
		中国南西部、揚子江上流エコリージョンの森林地帯に含まれる、ウオロング・ウエンチュアン地域での政府や住民参加による生息域回復事業
	種の保存/森林保護	パキスタン・バルーチスタン州ジワニでの生物多様性の保護
	ブラジル大西洋岸林の森林回復	
	ロシアエコツーリズム支援	
種の保存	IWC下関会議対応	
気候変動	CO2の排出削減を	
有害化学物質	TDP(注4)活動 政府への提言	

2002年度活動プロジェクト(2/3)

グループ	プログラム	活動プロジェクト
生態系	森林	森林保全シンポジウム開催(長野)
	淡水	中村市トホ公園との協力活動(普及教育)
		淡水域保全プロジェクト
	沿岸・海洋	国内干潟保全
		東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワーク推進
		諫早湾干拓事業への取り組み
		ズグロカモメ調査
		北方四島海域密魚対策支援
		フィリピンカガヤン北部住民参加型持続的資源管理活動
		有明海の環境教育
	生物多様性	油汚染野生生物対策
		生物多様性国家戦略フォローアップ
		移入種問題対策
里山保全活動・万博問題の対応		
助成事業	野生生物保護法整備の推進	
	助成金交付	
	助成事業審査システムの構築	
	助成活動発表・報告とそのデータベース化と情報発信	
久原基金	助成セミナーとフィールドツアーの開催	
	久原基金助成交付	
WWF - 日興グリーン	WWF・日興助成金交付	
インベスターズ基金	地域連絡員要請基盤整備事業(Regional Officer) No.2	
環境教育	シギ・チドリ環境教育プログラム	
エコリージョン	南西諸島	ジュゴン・クダガテ・ヤンバルクイナとその生息地の保全
		南西諸島の生物多様性の評価と保全
	南西諸島(サンゴ礁保護研究センター)	写真で見る白保の今昔展
		観察会
		白保親子教室
		新石垣空港問題対策
		長期集中調査
		短期広域調査
		赤土流出・畜舎排水問題
	運営費管理	
黄海	黄海エコリージョンプログラム	
トラフィック	トラフィック	専門家トレーニングの実施
		市場調査(CITES follow) 注5
		市場調査(bekko) ベッコウ
		市場調査(rhino) サイ
		市場調査(bear) クマ
		市場調査(turtle) ペット用カメ類
		市場調査(Invasive) 移入種
		市場調査(Emergency) 緊急調査
		普及啓発

2002年度活動プロジェクト(3/3)

グループ	プログラム	活動プロジェクト
広報	広報	実績の記録、管理、リファレンス
		普及活動
		消費行動の変容をめざす普及・教育活動
共同	共同	全国中学生・高校生「かけがえのない地球を大切に」作文コンクール
		効果的な環境対策への提言のための情報収集・提供 トラ保護活動のフォロー

(注1) TRAFFIC : Trade Records Analysis of Flora and Fauna in Commerce
(野生動植物国際取引調査記録特別委員会)

(注2) FSC : Forest Stewardship Council (森林管理協議会)

(注3) FTN : Forest and Trade Network (森林認証製品を扱っていく企業のグループ)

(注4) TDP : Target Driven Program (WWFの地球規模の重点課題)

(注5) CITES : Convention on International Trade in Endangered Species of Wild Fauna and Flora (ワシントン条約(絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約))

2002年度サポーター拡大事業計画

中長期重点強化課題

- WWF（ジャパン）のアイデンティティ（特色，独自性）を活かした知名度向上・サポーター拡大（ブランディング）による自然保護活動資金の確保
- サポーター維持活動を通じた自然保護思想の普及
- 事務管理の効率化
- 収益事業収益拡大による自然保護活動への寄与
- （ブランディング：WWFのブランド力の拡大と信頼・評価の高揚結果的に会員・サポーターの拡大につなげる）

2002年度活動方針

- (1)文字媒体・電波系媒体・インターネットを通じたPR活動
- (2)各方面との協働の促進
 - 企業・特定組織・学者グループ等との協働、地域パートナー発掘や当会拠点による地域展開促進
- (3)サポーター維持・拡大の工夫（自然保護思想の普及を含む）

2002年度活動プロジェクト

プログラム	活動プロジェクト
知名度向上及びサポーター拡大の開拓活動	広告（企業とのタイアップ等）
	パンダ大使の活動
	新聞、雑誌等の文字媒体の利用
	電波系媒体の利用
	インターネットプロバイダーとの連携
	パンダセット設置場所拡大
	イベント推進
	特定組織・学者グループとの協働
	法人サポーターの開拓
	企業とのパートナーシップ
	修学旅行・総合的学習・学校イベントへの対応
地域展開活動	しらほサンゴ村村民の開拓
サポーター維持活動と自然保護思想の普及活動	地域拠点・パートナーとの協働（サポーター拡大）
	個人サポーター維持（サポーターとの交流を含む）
	ドネーションアピール
	会報「WWF」・「パンダニュース」編集・制作
事務管理	パンダセット設置場所メンテナンス
	法人サポーター維持
	システム改善・維持
収益事業	パンダショップ拡充
	ライセンス（WWFのロゴマークを活用した企業との提携活動）
	取引の維持